

再評価調書（再々評価）

事業名	淀川水系 檜尾川 通常砂防事業（再評価時の事業名：檜尾川砂防ダム事業）				
所在地	高槻市 原				
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	山腹崩壊や溪岸侵食により流出する土砂が下流河川に堆積し、洪水を引き起こすことを防止するとともに、溪流直下の保全人家に対する土石流災害を防止する。			
	内容	砂防えん堤工 1基（提高H = 11.5、提長W = 78.4m） 流域面積A = 1.19km ² （えん堤地点） 流出土砂量V = 63,498m ³			
	事業費	全体事業費：約7.5億円（約6.5億円） うち投資済事業費：約6.7億円（約3.1億円） （内訳）用地費約4.3億円（約4.2億円） （内訳）用地費約4.3億円（約2.8億円） 工事費約2.9億円（約2.0億円） 工事費約2.1億円（約0億円） その他約0.3億円（約0.3億円） その他約0.3億円（約0.3億円） （ ）内の数値は再評価時点のもの			
	維持管理費	-			
	上位計画	大阪府都市基盤整備中期計画（案）			
	関連事業	一級河川 檜尾川 河川改修事業			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点	分析
		事業採択年度 S63 事業着手年度 S63 完成予定年度 H4	事業採択年度 S63 事業着手年度 S63 完成予定年度 H15	事業採択年度 S63 事業着手年度 S63 完成予定年度 H19	用地買収及び進入路借地に時間を要した
	進捗状況	用地： - % 工事： - %	用地： 67% 工事： 0%	用地： 100% 工事： 72%	
	途中段階の整備効果発現状況				
事業進捗に関する課題	特になし				

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価時点での状況	現時点での状況	分析
		災害発生の危険度 溪岸侵食や山腹崩壊などにより流出した不安定な土砂が、流域の溪床には多く堆積しており、洪水時に流出する恐れがある。	同左	同左	諸状況に変化なし
地元等の協力体制		保全対象戸数 128戸	保全対象戸数 H12年 132戸	保全対象戸数 H17年 132戸	
				H16.3に国土交通省の河川砂防基準（案）の発行に合わせ「砂防ダム」の名称が廃止され、「砂防えん堤」に統一されたこと及び、事業名の正確を期すため、国の補助事業名に変更した。	
		地元の要望を受けて事業に着手。防災事業として認識されており、事業に対する全面的な協力を得た。	自然環境等への影響について、住民等の反対意見が出され、地元の理解と協力を得られるように、住民への一層の説明が必要との委員会の意見を踏まえ、広報の配布・説明会等を実施。	現在は全面的に協力を得ている。	継続して砂防事業のPR等を実施しており、再評価時から状況が改善されている。

	計画時の想定		再評価時点での状況
		備考	
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益の分析手法が確立されておらず、算出していない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 1.9 便益総額 B = 1,216 百万円 総費用 C = 650 百万円 算出根拠 国土交通省河川部砂防部(H10)「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」
	その他の指標 (代替指標)		
事業効果の定性的分析	安全・安心	土砂災害による被害の軽減が図れる	・受益者など 地域住民 同左
	活力		
	快適性	渓流沿いの管理用通路を散策道として利用できる。	・周辺住民 同左
	その他		
自然環境等への影響と対策	周辺の自然環境や景観に配慮し、できる限り護岸には自然石を用い、えん堤には化粧型枠を採用。		同左
その他特記すべき事項	前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要	(意見具申)事業継続(今後とも必要の都度、地元への事業説明に努める。自然環境・景観に配慮。) (府の対応方針)事業継続(今後とも必要の都度、地元への事業説明に努める。)	

現時点での状況(変更点)	分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 1.74 便益総額 B = 1,278 百万円 総費用 C = 735 百万円 算出根拠 国土交通省河川部砂防部(H12)「土石流対策事業の費用便益分析マニュアル」 	本事業の整備による事業効果が期待できる。
変更点特になし	
変更点特になし	
極力コンクリート構造物によらないよう、護岸工にかご工(かごに自然石を充填)を採用するなど植生が入り易い環境を創出するなど自然環境に配慮 また、現場の法面緑化に努めていく。	自然石等により、周辺の自然環境に配慮した整備を行っている。
今回評価時点の反映状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成11年度より、芥川こいのぼりフェスタに毎年参加し、河川愛護と砂防事業のPRを実施。 ・地元自治会等に対し、年1回以上工事概要説明を実施。さらに、工事工程等については随時報告。 ・自然石の構造物を採用。法面緑化に努める。